

4. 学際的・国際的な学びを育てる教育環境

1) 学部学生の国際化への支援

(1) トビタテ!留学 JAPAN への応募支援

文部科学省が、グローバル人材育成施策の一環として行う「官民協働海外留学支援制度～トビタテ!留学 JAPAN 日本代表プログラム」は 2021 年度派遣留学生の募集を行わなかった。長期留学希望の学生の個別相談を継続している。

(2) インドネシア ガジャマダ大学からの短期研修受け入れ

ガジャマダ大学と看護学部は 2013 年に交流協定を締結し、毎年学生の受入や派遣を行っている。令和 3 年度は COVID-19 感染拡大により中止となった。

(3) 異文化理解看護フィールドワーク開講とインドネシアへの短期派遣研修

令和 2 年度から、インドネシアへの短期派遣研修を事前学習・フィールドワーク・事後学習として単位化することとなったが、令和 3 年度は COVID-19 感染拡大により講座開講および短期派遣研修は中止となった。代わりに、インドネシアガジャマダ大学看護学部とのオンライン交流会を実施し、2 回生 4 名が英語でのプレゼンテーションを行ったほか、グループワークで COVID-19 感染下での日常生活・対策について意見交換した。

Nursing Student's Exchange Program on line between UGM & UoK

March 23, 2022 15:00 ~ 16:40 JST (100min)
13:00 ~ 14:40 Indonesia Time

Enjoy! Intercultural communication!!

1. Opening remarks
2. Student self-introduction and Ice breaking session
3. Introduction of daily living and medical system.
"How to be a nurse in Japan" "Support for the pregnant and child"
"Natural disaster in Japan" "Medical care in Kochi" et al.
4. Exchange opinions about "intercultural understanding"
5. Closing remarks

Inquiry : Syahrul Alim (Universitas Gadjah Mada) syahrul.alim@ugm.ac.id
Michiko Kawakami (University of Kochi) kawakami@cc.u-kochi.ac.jp

Online Exchange Program
UGM - University of Kochi, Japan

Wednesday, 23 March 2022
13.00-14.40 Western Indonesian Time/
15.00-16.40 JST

| Agenda | Duration | Time |
|---|----------|-------------|
| Opening remarks | 3' | 13.00-13.03 |
| Self-introduction and Ice breaking | 15' | 13.03-13.18 |
| Introduction of each university and town, Students presentation (4 UoK - 2 UGM, 15 mins each) | 60' | 13.18-14.18 |
| Intercultural Understanding (small group discussion) | 20' | 14.18-14.38 |
| Closing remarks | 2' | 14.38-14.40 |

Join Zoom Meeting Directly
<https://bit.ly/UGMUOK>
OR
Meeting ID: 826 9842 1840
Password: 756683

UNIVERSITAS GADJAH MADA - UNIVERSITY OF KOCHI

(4) 弘光科技大学

看護学部 4 回生 5 名が、看護研究（災害・国際）として「COVID-19 流行下の日本と台湾の看護師疲労感の強さの比較」をテーマに選び、台湾・弘光科技大学護理学部との共同で実施した。結果は同名の看護研究報告書にまとめられ、発表された。研究実施に際しては、護理学部複数の教員と情報交換を行いつつ進めた。

(5) 「学生のための海外留学・研修等のマニュアル」の改訂

令和 2 年度に、海外派遣における危機管理強化のため、新たに特定非営利活動法人 海外留学安全対策協議会 (JCSOS) に入会し、海外派遣時の危機管理サポートを受ける体制を整えている。令和 3 年度は、COVID-19 感染拡大に合わせて従前の「海外派遣のための危機管理マニュアル」「学生の海外渡航のための危機管理マニュアル」「外国人留学生受け入れマニュアル」を改訂し、本学の危機管理体制を明示するとともに、学生への意識啓発の強化を図っていくこととした。

2) 大学院生への支援

COVID-19 感染拡大は大学院教育にも深刻な影響をもたらした。多くの国際交流イベントが中止となり、本学学生の国外留学または海外協定校からの学生受け入れがほとんどなくなったため、国際的な学習機会が著しく制限されることになった。また、本学留学生の学習及び生活に与えた影響は特に大きく、担当する教職員が通常の教育に加えて追加で個別の対応を行った。

2017 年に締結した米国・カリフォルニア州立大学サンフランシスコ校 (UCSF) との協定が終了時期を迎え、やむなく更新を断念した。

(1) 弘光科技大学

上述の看護研究で得られた成果は、今後も共同研究を継続することで台湾側共同研究者と確認している。看護研究で得られた成果は、主指導教員、本学卒業生、台湾側共同研究者の共著として国際学会 (7th WANS) に投稿され、現在査読中であり、今後は共著論文等の発表も準備中である。

(2) 留学生に対する支援

データ収集のため本国に一時帰国した大学院生が、現地の COVID-19 感染拡大の影響を受けて帰国を断念したことにより、以後の奨学金が停止となり経済的に困窮した。このことに対して、研究科、事務局、同窓会が協力して支援策を検討した。また、現地でも研究を継続できるように指導教官が遠隔で外国語による個別指導を継続した。さらに、研究実施や課程修了に必要な文書や審査などの全ての手続きを遠隔で実施することにより、本年無事に課程を修了した。

令和 4 年入学予定であった大学院生が、水際対策の一環としての新規外国人入国制限の方針によって来日ができなくなった (令和 4 年 3 月現在も来日の目途がたっていない。) これについても、指導教員と研究科が、事務局、関係機関と調整を行いつつ、学生が支障なく学習を開始し、継続できるように支援した。全ての授業は遠隔で受講できるように調整し、個別に遠隔指導も実施している。

(3) QI プロジェクト

開催の意図：学際的、国際的共同研究を推進する次世代の若手研究者・教育者の育成のために、QI をテーマに、模擬的に国際共同研究プロジェクトの計画を経験する。

開催日程：「共創看護学セミナー」の一環として開催

講師：所和香子 (カナダ ヴィクトリアアロイヤル・ジュビリー病院 NP)

受講人数：博士前期課程学生 4 名 (聴講 1 名を含)

本年度は、実際にテーマを設定し、情報を集め、計画書を作成し、それについてプレゼンできることを目的に、講義における実施を試みている。4 コマ (90 分/コマ) 所氏を入れてのディスカッション+8 コマ担当教員を入れてのディスカッションなどで実施した。学生は、看護師の健康増進、医療施設の経済的効率などの視点から、“超勤”を QI のテーマに取り上げた。超勤の解決に向け、超勤に至る原因の追及、エビデンスレベルの高い解決に向けた介入、当初のプロジェクトの目的と原因を考慮した OutCome 指標の設定などを行い、計画書を作成、プレゼンを行った。所氏に、1 ヶ月に 1 度のペースでアドバイスをもらいながらすすめた。また、看護管理の教員も参加し、管理的な視点からもアドバイスをもらった。成果は大変クオリティの高いものであり、学生の満足度も高かった。所氏から、実際には、OutCome 指標とともに、経過を測る指標を用いていることなどを聞き、具体的なイメージも広がったように考える。講義の一環として行ったことで、より現実的に QI プロジェクトを体験することができた一方、受講できる人数に限られてくるなどの問題も見られた。次年度は、昨年度、本年度とも違う形での取り組みを考えていきたい。